

受け継がれる伝統の中で育つ “菩っこ” たち

学校では、子どもたちは単に世話され守られる受け身として生活しているわけではではありません。自分たちの使う場所の掃除や学級の係活動、当番の仕事など**生活の主体者**として日々活動しているのです。こうした活動を通して、「公共の概念」、自らの役割に対する「責任感」、「協力」や「話し合い」……とさまざまな「**社会性の基礎**」に関する学びを膨らませています。

高学年になると、学校の自治的活動においてスタッフとして活躍するようになる “菩っこ” たち。



自分のことが自分でできるようになり、自分たちのために行動できるようになり、やがて**みんなのため**にという視点で活動できるようになります。高学年になると児童会の中で、いろいろな委員会に所属し、全校のための様々な仕事を自治的に分担できるようになります。5月7日(木)の**全校集会**では、そのうち3つの**委員会**が、それぞれの活動の紹介と全校へのお願いの呼びかけを行いました。1年生から6年生までの全校児童に、**わかりやすく伝えられるよう工夫**する姿が見られました。



紹介と全校へのお願いの呼びかけを行いました。1年生から6年生までの全校児童に、**わかりやすく伝えられるよう工夫**する姿が見られました。

「たてわり活動」が育てる “菩っこ”

もちろん、こうした活動は小学校に入学したらずぐにできるというものではありません。学校職員が一つひとつ丁寧に教えはします。しかし、もう一つ、菩提寺小学校が大切にしている「**きらめきたてわり活動**」の存在も大きな役割を果たしています。

通常の学年や学級での活動の他に、1年生から6年生までを色別に分けた縦割り集団による活動のことです。小さな学年の子どもたちは、**学校のリーダーである上級生**が皆の前で堂々と話す姿に学びます。5月1日(金)「**どうぞよろしくの会** (縦割りグループ初顔合わせ)」では、兄弟学年のペアを決めたり、きらめき遠足に向けて仲良くなるためのゲームをしたりする活動の進行を5・6年生がすすめました。また、小さな学年の子ども



たちは、**上級生に教えてもらって**掃除の仕方などを学びます。上級生が自分たちにしてくれる世話の仕方から、優しさや小さい子との接し方を学びます。5月14日(木)体カテストでは、自分たちのテストを後回しにしてでも、1年生のテストの世話をしてくれた6年生の姿が見られました。



そして、“菩っこ” の力の集大成

「全校たてわりきらめき遠足」

「ほおっ。6年生になったら、**あんなにちゃんと**1年生の世話をするんやなあ。」

5月13日(水)台風一過の雲一つない青空の下、**全校児童によるたてわりきらめき遠足**を行いました。全校児童・職員・地域から同行ボランティア・見守りボランティアに参加くださった皆さんの総勢480名を超える一大イベントです。冒頭の言葉は、交差点で立っていただいた**ボランティア**さんが、1年生と6年生がペアで歩いている姿を見て、つぶやかれたものです。



初夏の風がさわやかな希望ヶ丘文化公園で、色別のリレーに歓声をあげ、お家でお世話になったお弁当をいただき、芝生広場のそばの小川に足を浸し、いきものを見つけ、遊具に汗を流すその一コマひとコマ、**小さな学年の子どもたちの傍**には、いつも**ペアの上級生の姿**がありました。自分のしたい遊びに走ることなく、小さい子に歩調を合わせ、視線を下げて「次どこへ行く?」と優しく問う献身的なまでの姿には、本当に感心させられました。このような姿は一朝一夕の成果ではあり得ません。自分たちが**かつて上級生にしてもらったように**、下級生の世話をしたのでしょう。かつて**憧れとともに見上げた上級生の姿**から学んだ力を生かしているのでしょうか。要所要所で全校のみんなに説明して

いる6年生の姿を頼もしく見ながら、開校以来この行事を続けてきた学校と見守り支え続けてくださった地域の皆さん、そして**“菩っこ”の伝統**を守り続けてきた数多くの卒業生たちのおかげで、今年も“菩っこ”は**大きく成長**していくんだなあと考えていました。

いる6年生の姿を頼もしく見ながら、開校以来この行事を続けてきた学校と見守り支え続けてくださった地域の皆さん、そして**“菩っこ”の伝統**を守り続けてきた数多くの卒業生たちのおかげで、今年も“菩っこ”は**大きく成長**していくんだなあと考えていました。

